

実践編

第2学年 わくわくやさいカードを作ろう！ ～やさいのよさを知って、すすんで食べよう～

1 本実践の教材について

本題材のねらいは、野菜について一人一人がカードを作る活動を通して、野菜の栄養や調理法について興味・関心を広げ、深めていくことで、野菜を食べるよさを感じ、もっと今後の食生活で自ら進んで野菜を食べていこうとする態度を養うことである。また、今までの野菜に対する捉えが友達と交流したり、家庭へインタビューしたりして得た情報を基に更新されていくことも期待している。好きな野菜についてカード作りを行うことで、自分の好きを追究し、もっと知りたい気持ちを高めていったり、苦手な人に対しての思いにも寄り添いながらおいしい食べ方を探ったりしていく中で多様な考えになることもねらいとしている。

第2学年の「やさいとなかよくなろう」という学習では、苦手な野菜を食べるための工夫について考えていき、授業後には苦手な野菜を食べることができたかをチェックする完食カードなどが構成の中心となる実践がなされてきた。これでは、苦手な食べ物を食べる工夫を見いだすことはできるが、授業後の実践していく姿には課題が見られることがあった。これは、授業中には苦手な野菜と向き合って考えていくことができていても、そこで見いだした工夫が実際の自分の食生活とのつながりがもてなかつたことが要因であると考えられる。

そこで、今回「わくわく野菜カード」を作る活動を提案する。具体的には、自分の好きな野菜のよさに着目しながら、その野菜の魅力が伝わるカードを作成していく。自分の好きな野菜について追究していく中でその野菜への好きがさらに広がったり、他者との関わり合いを通して自分の苦手意識と向き合う機会になったりしてほしいと願う。さらに一人一人が作るカードには、生活科で栽培している自分で選んだ野菜を活用する。そうすることで、今回の野菜カード作りに自分の思いが寄せられ、自分事として捉えやすくなる。その上で自分が好きな野菜についてその野菜のよさを書いていくことになるため、もっと好きになり、もっと食べたくなる気持ちの高まりも期待できる。本題材で着目していく野菜のよさとは、事前の生活科の学習時に子どもと共に作成した、育て方、様子、成長、料理、栄養という5つを視点とし、それを基に野菜のよさについてカードを作成していく。野菜のイラストに上記の視点ごとの吹き出しに自分の言葉で記入していく。その際、料理や栄養に関しては既有知識や生活経験を基にして書くことが難しいと想定される。そこで、自分の育てている野菜を家庭ではどのような料理で食べているのかインタビューしたり、栄養教諭からの給食に関する情報を基にしたりすることで料理や栄養に関する吹き出し部分を書いていけるようになる。その上で様々な料理を書いていく中から自分のおすすめの料理を選んでいく学習内容を設定する。おすすめの料理を自分で選ぶことでその料理のおいしさだけではなく、料理の特徴についても着目して考えていくことになる。この過程を経て、その野菜の料理への生かし方の工夫を獲得していくことになり、野菜の捉えが更新されていく。完成した野菜カードは、校内へ掲示し、見る人が自由に取っていけるように設置することで、作った子ども自身だけではなく、校内の他学年の子どもたちにも野菜のよさについて伝えていく機会となる。また、作成した野菜カードを印刷し持ち帰ができるようにすることは、小学校の発達段階においては、家族へお願いして作ってもらったり、自分自身で作ってみたりすることができ、自分に合ったお気に入りの野菜の食べ方を見付けていく姿につながっていくといえる。

2 題材の構想

今回の実践では、次の2点をポイントとして題材を構想する。

- 生活科の栽培活動と関連させたわくわく野菜カード作りを設定することで、野菜への興味・関心の高まりが継続し、実践していくとする意欲を高められるようにする。
- 「おすすめのメニューをききたい」という子どもの思いを共有し、伝えたい人のことを考えながら野菜のよさを考えていく中で、栄養教諭からの価値付けや給食の工夫による新たな視点の獲得により、野菜の捉えが更新できるようにする。

3 研究の視点に沿った具体的取り組み

(1) よりよい食生活の追究に向かうためのカリキュラム開発と題材構成の工夫

第1時では、自分の育てている野菜を人気の野菜にしたいという子どもの思いから、人気の野菜にするためにはどうしたらよいかを子どもと共に考え、附属小のみんなに伝えていく内容を整理していく。その方法として、誰でも自由に取れるような野菜カードを作ることを提案する。取って見てみたくなる、持って帰って作ってみたくなるような、わくわく感があるカードを目指すことを子どもと共有し、カード作りを行う。このカードは生活科の栽培活動と関連させ、自分の育てている野菜のカード作りを行うことで、野菜への興味・関心が高まった状態で、本題材に臨むことができると考える。また事前と事後に生活科の学習と関連させて進めていくことで、知識を習得し、自分事として捉え、実践まで子どもが意欲をもって臨むことができるようになる。

(2) 食生活を見つめるための他者との関わり合いを生み出す工夫

1つ目は、給食のもりつけ表の活用である。第1時でわくわく野菜カードの作成に取り組む際に、附属小のみんなに伝えたい視点は決まったものの、料理や栄養について上手く書くことができない状況を引き出していく。その上で、栄養教諭から給食で伝えたい情報があるときは、もりつけ表を通して発信していることを知らせることで、もりつけ表に注目できるようになる。そうすることで、共通体験である給食を基に自分の育てている野菜について探っていく過程で、他者との関わり合いが生まれていくようになる。この他者との関わり合いにより自分の野菜カードを完成させていく過程で、個々の野菜へのよさを共有していく。そうすることで、多様な考えを知ることになり、野菜のよさの視点を獲得していくようになる。

2つ目は、自分の育てている野菜と違う野菜のグループ同士の関わり合いを生み出す工夫である。今回育てている野菜同士でグループになりカード作成を行っていく。第2時では、おすすめの料理を記入する際に、迷って選べなかつたり、本当にこの料理で伝えたい人におすすめできているのかと立ち止まつたりした際には、自由にグループを越えて交流できるようになる。そのため子どものつぶやき等を見取り、必要なタイミングで教師が促すようになる。そうすることで、お互いのカードを見合うことで、自分のカードをよりよくしていくことができるようになる。

(3) 習得した知識を実践へつなげる、振り返りや日常での関わりの工夫

生活科の学習の終末には実感を伴った気付きの変化を加えたわくわく野菜カードが完成できるようになる。このカードをクラスでお互いに見合い、よさを認め合う中で自分がほしいカードは持ち帰られるように準備しておくことで、家庭での実践へつなげていけるようになる。

継続した学びとなるように、今回作成したわくわく野菜カードは、事後の生活科において活用しながらさらに完成させていくようになる。この題材における学習が他の学びでも活用されるような構成にすることで継続した学びとなり、それぞれの学びが広がることをねらっている。